

編 集 後 記

消化器外科学会誌の編集委員になって約1年になります。編集委員会は月に1回ですが、編集委員には毎月10編前後の論文が宅急便で送られてきて、これを査読することが義務づけられております。任期は6年。この間、多忙な仕事の合間を縫って査読作業が続くわけですが、とりわけスケジュールの立て込んである月など、宅急便のパッケージを見ただけでも気が遠くなる思いがすることさえあります。そのような状況の中で誤字脱字、コンピュータ入力ミス、漢字変換ミスなどの初歩的ミスが散見する論文に行き当たりますと、途中で査読を中止したくなることもあります。

著者には投稿前に最低限読み返して、初歩的、技術的ミスを自らチェックするくらいの心掛けが必要かと思う次第です。

それでも、多くの時間と労力を費やして作成された論文が専門の査読者によって推敲され、完成度の高い論文に仕上がってゆく様をみておりますと、あたかも無事手術を終えたときに似た充実感と手応えがあります。内容のある論文は推敲を重ねれば重ねるほど格調高く練り上げられてゆくものです。時として著者には辛口の不本意なコメントが付されることもあり、憤慨されることもあるかと思いますが、より良い論文をめざして謙虚に受け止めて戴きたいと思っております。

私自身、駆け出しの委員で他の委員の皆様にもいろいろとご迷惑をおかけしていますが、今後とも宜しくお願い致します。

(亀岡 信悟)